



## 部活動派遣費問題を考える

### 地域円卓会議

行政の補助だけでは足りない子どもの派遣費、  
一体誰がどうやって支えていくべきか？

### 実施報告書

開催日時： 2021年1月30日（土）13:00-15:50

配信場所： 公益財団法人みらいファンド沖縄

開催方法： オンライン会議システム（zoom）

主催： 公益財団法人みらいファンド沖縄

協力： NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成  
公益財団法人みらいファンド沖縄  
NPO法人まちなか研究所わくわく

# ACTIVITY REPORT

## 【報告】部活動派遣費問題を考える地域円卓会議



■開催日時：2021年1月30日（土）13:00-15:50

■配信場所：公益財団法人みらいファンド沖縄

■開催方法：オンライン会議システム（zoom）

■着席者数：10名（論点提供者、司会、記録者含む）

■参加者数：54名（学生、企業、行政等）

■主催：公益財団法人みらいファンド沖縄

■協力：NPO法人まちなか研究所わくわく

■お問合せ：NPO法人まちなか研究所わくわく

### 論点提供

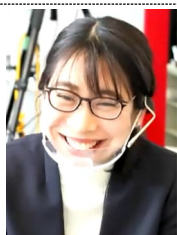
### 嘉数 菜利子 氏

（公益財団法人みらいファンド沖縄 沖縄・離島の子ども派遣基金プログラムオフィサー）

### 行政の補助だけでは足りない子どもの派遣費、一体誰がどうやって支えていくべきか？

公益財団法人みらいファンド沖縄では、休眠預金を活用した子どもの部活動の派遣費支援を行いながら、部活動等で派遣される子どもたちの支援にかかるコストの現状調査をしてきました。今回はその中間報告とともに、派遣支援実務に関わっている3つの実行団体の報告も交えて、不足している派遣費を誰がどうやって負担あるいは支援し、子どもの体験保証をしていくかの議論を当事者である父母を交えて議論します。

センターメンバー



嘉数 菜利子  
公益財団法人  
みらいファンド沖縄



沖山 亜紀子  
NPO 法人  
豊見城市体育協会



金城 充  
一般社団法人  
沖縄県サッカー協会



喜納 正雄  
株式会社ハブクリエイト  
代表取締役



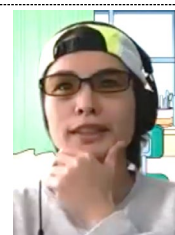
島袋 達男  
豊崎ベースボールクラブ  
コーチ



新里 貴輝  
宮古サッカー協会 副会長  
兼 ジュニア委員長

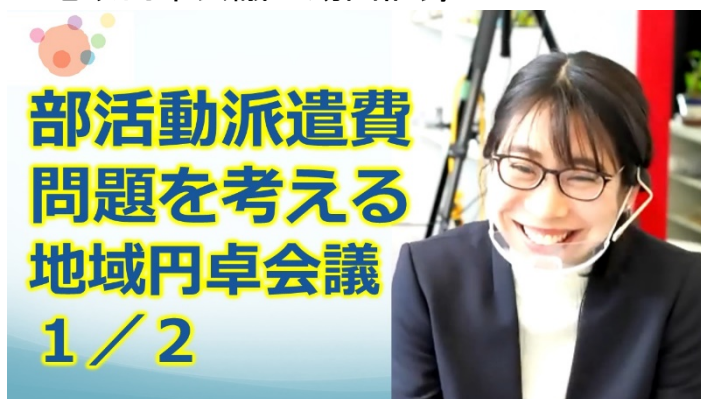


大嶺 高輝  
竹富町役場政策推進課  
課長補佐

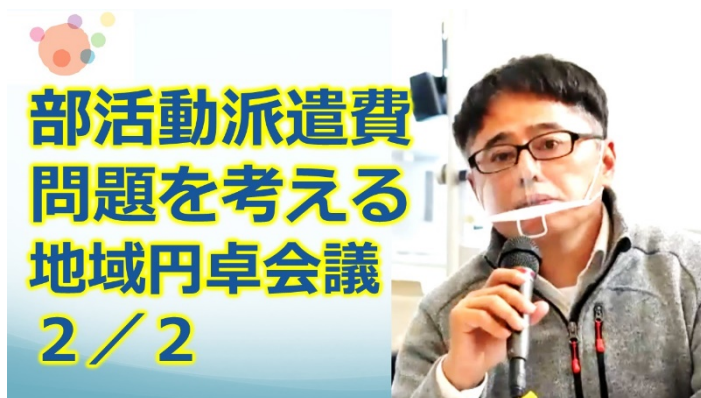


糸数 温子  
日本学術振興会 特別研究員

➤ 地域円卓会議の動画記録



- ・公開日：2021年3月24日（限定公開）
- ・URL：<https://youtu.be/tORGubFellA>



- ・公開日：2021年3月25日（限定公開）
- ・URL：<https://youtu.be/61BSxxBNpBo>

## ➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) 一括交付金以降の派遣にかかる行政補助の枠はしっかりキープすべき、そのための行政への政策提言もしっかり行おう。
- 2) 競技種目による派遣の費用格差や組織による資金調達力の格差、そして孫離島に対して配慮した事業計画が必要。最終的には様々な子どもたちのニーズに応える事業とすべき。そのためにはあらゆる財源を組み合わせたミックス型の基金にしていくべき。
- 3) いわゆる「あきらめ」てしまった層をどう認知し、どう世の中に訴えるかという戦略が不可欠、そしてこの支援の取り組みをどう子どもたちに伝えるのかもしっかり考えるべき。

## ■参加者によるサブセッション

### 行政の補助だけでは足りない子どもの派遣費、一体誰がどうやって支えていくべきか？

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・様々な立場の人から色々な意見が聞けてよかった。課題は、シンプルな問題ではない。
- ・子どもの人権が守られていない。未来の職業選択などの可能性が狭まっている。社会の構造の欠陥。地域で支援していくことが大事。
- ・派遣費が回数制限や適用される大会などがあることに驚いた。

②

- ・宮古の派遣費問題
- ・離島に住んでいるがうえに、本島遠征に行くのが困難な状況  
⇒社会課題として捉えて周囲がどう取り組んでいけるか
- ・実際に部活動で県外に遠征に行く際には、行政からの補助がなく希望者のみでいくことになった。技能面にも差がでてしまった  
⇒行政からの補助があれば、より充実したものになったのでは？  
どこが責任をもって取り組むべきなのか？
- ・部活動が盛んになることで地域社会にも貢献できる。
- ・保護者同士で協力し派遣費を捻出していた。親の立場でいえば、行ってほしいけど、費用がかさむため簡単には送り出せない。  
⇒地域を巻き込んだ取り組みができればいいのではないか
- ・企業にも支援の輪を広げる  
⇒大会の協賛企業に支援をつのれないか。

③

<感想>

- ・沖縄県は貧困率が高くて子どもへの支援が他県と比べると少ないと思う。行政以外の期間で支援を検討する必要があると思う。部活している子だけの支援はいかがなものか？
- ・道具、部費は高いので遠征費は協力したほうが良い考え。
- ・この課題を知ってはいたが深く考える機会になった。行政だけでは支援の限界の段階にある話。地域社会でどう考えていくかが求められるのでは？クラファンの問題である継続性を回避するための予算確保の仕組み導入が必要ではないか？

<意見>

- ・(島袋さん) 派遣費を考えると補助金が永続的である捉え方は間違っている。与えるのではなく作る方法を考えることが必要。この方が継続されるのではないかと思う。スーパーの前で派遣の募金をやっている、これが教育的にどうなのと思う？派遣費をどうにかして自活できる貯めの捻出方法、お金の教育をトータルで見て支援していくが良いと思う。まずはお金の教育+補助金に頼る。徐々に補助金を縮小させて自立していくのが良いのではないか？
- ・昔から費用捻出が重要だったのが沖縄だからこそ仕組みづくりが必要。
- ・「稼ぐ」は親か子どもか？どっちに重きを置いた方がいいか？→子どもが稼ぐのは難しい。教育的に問題ないものを表面化させてお金を生んでいくのが良いのではないか？

- ・補助金が出るスポーツが限定されているがそれ以外のスポーツは遠征費を稼いでいるのか気になった。

④

- ・離島の高校の演劇部では有料の講演を開いて本島への遠征費を稼いでいるらしい？団体内でお金を用意するのが当たり前の感覚な場合もある。
- ・大会などの場合は開催にメリットのある民間企業を探す？
- ・IT企業が地域の人材育成を目的としてプログラミング教室を運営している  
→スポーツや文化活動の経験のある人材を評価する社会であるならば、その活動を民間企業が支えることがあってもいいのではなか。

⑤

- ・県外に出たときの経験はすごく大切である。一方経済的な状況で道を断念してしまう事例も実際にあった。
- ・離島間での練習試合でも派遣費用はかかる。(個人競技の部活がメイン)(チーム競技は人数集めの時点で大変)
- ・コーヒーを売るなどの方法で派遣費を集める手段がある。
- ・ラグビーチームなどの派遣は一度に40~50人くらいで移動する。OBの皆さんの協力で仕組みはある程度出来ているがそれでも経済的負担は拭えない
- ・チーム活動の規模、場所によっても支援の手段を変える必要がある。

⑥

- ・離島に住んでいた際に、お祭りに出店を出すなどして資金造成していた経験から困難さは理解している。

- ・東京に住んでいた時には移動にお金がかかって出せないという感覚を持ったことは無かった。住む場所による違いだけで大会参加のしやすさなどに差が出る、離島に住んでいるだけで可能性が潰されることは課題であり補助していくべきである。
- ・円卓参加前の会議では、他の補助は必要あるのか分からなかったが、家庭の事情で伸びる機会が与えられないという点や、部活動以外の体験保障についても同じように考えるべきだと感じた。知人の友人が大会に出る際にチケットを購入するなどして協力したことはある。本当の人が八重山へ行くということもありかと思った。
- ・以前の円卓会議でも色々と議論されてきたが、なかなか「こ子で担うべき」という答えは見つけにくい。どこが担っていく「べきなのか」「できるのか」議論していきたい。
- ・離島からだと宿泊場所なども問題になるので、会場近くの人が宿泊場所を貸せる仕組化などができるのでは。(資金援助だけではない支援の仕方)
- ・公平性や効果が担保されないと公金は投入しにくい、地域で支えていく仕組みを考えていけるフェーズでは。(クラウドファンディングやふるさと納税など)
- ・クラウドファンディングなどは強いチームへは支援が集まりやすいが、競技人口の少ない競技や成績問わずに、子どもがやりたいと思う課外活動にお金をさける仕組みが必要。みんなに機会が与えられる仕組み。
- ・子供の成長を地域で醸成する仕組みが重要。
- ・地域のお財布のような基金が起ち上げられると、寄付側も一度に大きなお金を寄付するのではなく、おつりのような小さなお金を寄付していくような寄付の仕方ができるとよいのでは。

⑦

- ・地域全体からバックアップを受けるために日ごろから貢献活動、地域活性化活動を部活動の一環として取り入れる

↓

地域密着化、地域連携による認知

↓

地域によるサポート

(例)

- ・地域から協力が得られるかも
  - ・ふるさと納税の一部を費用に（行政としても地域のこどもの育成に費用が当てていることはイメージアップにつながるのでは）

⑧

- ・メンバー同士で、「以前、部活をしていたか」という質問をしました。
- ・お子さんがいる方は、子どもの話にも及びました。
- ・「離島はやはり大変だ」との声がありました。
- ・部活動の派遣費の負担について、部活に入るのが個人の判断なので、自己負担との境目をどうするか、難しいとの声がありました。

⑨

- ・強いチームにだけ優先するのではなく、本島の人などにも重点するなど
- ・家庭での負担額が大きく、捻出するのが難しい
  - ・タオル販売や、屋台での売上でまかなう。
  - ・学生によるバイトやボランティアなどの学生自身によりお金を作ることで勉強にもなる。
  - ・学校からの費用提供はほとんどない。
  - ・一括交付金が無くなり、2020年度から資金ねん出が難しくなる懸念がある
  - ・試合内容をライブで親に提供することで、視聴料として資金を集める。

⑩

- ・マーチングバンドの派遣費用が100万円くらいすると聞いたけど、今まではむしろどのように負担してきたのか？（西浦さん）
- ・行政補助、社会補助、親御さん負担、といういくつかから遠征費が賄われてきている。どこかに寄付や援助というものを引いてしまうと持続可能にならないのではないかと。負担比率の最初のグラフ。行政の比率を上げなさい、というのが出てくるだろうが、限られた予算の中でどこかこの先削られてくる可能性もあるだろう。持続可能な形態、何がベストミックスなのかを考えなければならないと思った。民間企業が負担できる比率も増やさなければならないけれど、コロナ禍の業績悪化などでは持続可能性は下がってしまうだろう。自助は家庭が苦しくなった時に持たない・・・（高橋さん）
- ・ベストなミックスをつくっていく必要がある。休眠預金がトリガーにはなっているが、ストックではなくフローなので、ここに頼っていくのは持続可能ではないと思う。そこを県民が広く支える基金、マイクロにお金を出し合って支える仕組みができるとよい。そこに向かって啓発、教育を進めていく必要があるだろう（落合）
- ・課題認識をやはり広めていってもらい必要がある。自分事として捉えて行く必要があるだろう（高橋さん）
- ・鹿児島県も県内で大会がある。離島はどこから支援が出るのか。持続可能にしていくために経済面を考えてなければ（折田さん）
- ・社内で部活の遠征費をどう出すかの議論をした時に、メジャースポーツとマイナースポーツを考えたときに、マイクロな資金を県民が出すとなった時、メジャースポーツ（野球など）に集まるのではないかと議論になった。不公平になるのではないかと。メジャーでないものについても、同様にお金がかかって

しまうので、そこを平等にやる必要があるのではないかと思った。みらいファンドさんが立場的にやってもらえるとよいと思うが、

(高橋さん)

- ・部活動も弱い、強い部活動自体にお金が集まらなくなり、つぶれてしまうというものを目撃したことがある(東北で)。子どもが大会で勝つことだけが目的ではなく、子どもの成長が目的なので、そこを考えたときにきちんと担保できるようになるとよいと思う。

(落合)

- ・平等でなくなって、チャンスがなくなってしまふのはもったいないと思う。(西浦さん)
- ・マイナーなスポーツ、文化系のものがすたれてしまうというのは避けるべきことだと思う。子どもがお金のことで親に言われて部活動に入るの自体諦めることがないようにした方がよいと思う。(折田さん)
- ・経済的状況で諦める子どもが少なくなったら良いと思う(高橋さん)

#### ⑪

- ・派遣に関して大会が多い、県外に優勝してから行くのも大変ですが、改めて離島からくる(特に孫離島)かたの負担が大きいと感じます。
- ・自身の部活の思い出があり、沖縄から本土、離島から本土、本島も負担が大きいと大変。行政補助も続ける、協賛広告を企業にお願いする。子どもたちが自分たちで地域に呼びかける方法もあると思った。(学校や地域との連携)
- ・小学校でサッカーしていた、派遣の経験が10回くらいあります。OBなどからの募金などもあってもいいのではないかな?
- ・離島地域の派遣費負担が大きく大変だと思いました。目を向けられてないスポーツや活動にも目を向ける必要。行政や地域が負担してくれていることを子どもたちにもわかってもら

らう活動も必要、子どもが大きくなった時にふるさと納税に協力してもらえそうな仕組みも必要。

- ・地域企業や地域にスポーツチーム(FC琉球等)があるので、そういうところにも未来のスポーツ選手を育成する意味での支援をしてもらったらよいのでは?

#### ⑫

- ・企業からの寄付をどうしたらもらいやすいか?会社のメリットが無いと依頼しにくい。大会の横断幕に企業ロゴを入れたら、協賛してもらえんじゃないか。こういうのも社会貢献、寄付するのが社会貢献にあたるから、沖縄県として、社会貢献とした企業に、県が表彰するとPRになるのでは
- ・離島から出てくる子どもたちの旅費負担を減らす方法として、那覇から練習会場までの送迎ボランティアを募るネットワーク作りをしたら、良いのではないかな?
- ・豊見城が父兄指導者に派遣費を出しているが、選手に全額補助した方が負担が減るんじゃないか。一番いけなくて悔しいのは選手だから。

#### ⑬

- ・自分たちで派遣費を集めていくしかないのでは。
- ・毎回毎回助けるのは厳しい。
- ・民間の力が必要
- ・定期的に遠征費を負担することは、地域の人からも厳しい。

#### 【結論】

- ・民間もどこに寄付していいのかわからないのかもしれない  
→寄付の場所を民間にも分かりやすくしたほうがいいのでは。



→どこに寄付していいのかが分かる 窓口があればいいのではないか。

⑭

<意見>

- ・公的なお金で補助するのはいかがか。
- ・部活動も貧富に関係なく全ての児童に教育機会として与えられるべき場のはずなので、市町村や国からの補助があっても然るべきではないか

- ・メディアに取り上げてもらい、有志から募る
- ・民間企業からの支援もありがたいが、不安定さがある

<提案>

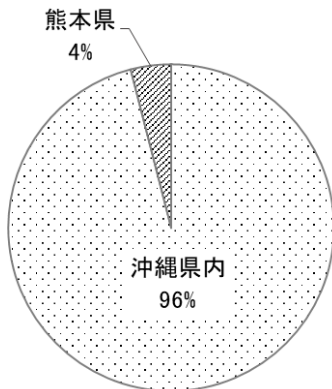
- ・全国大会を冠するのであれば、大会参加者が出場者の事情を考慮して補助や日程決めをするべきではないか
- 大会出場者補助のための基金をつくり、参加者や有志から募る

## 部活動派遣費問題を考える地域円卓会議（オンライン） 参加者アンケート集計

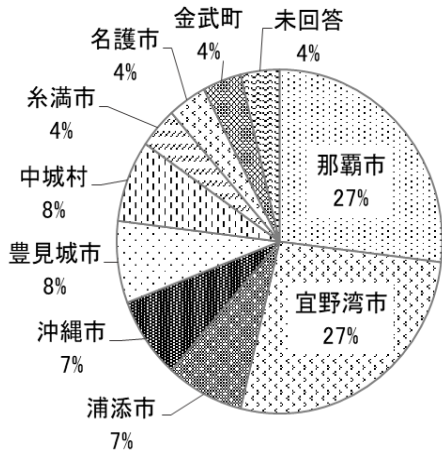
### ◆概要

- ・開催日時：2021年1月30日(土)13:00-15:50
- ・開催場所：公益財団法人みらいファンド沖縄
- ・開催方法：オンライン会議システム（zoom）
- ・着席者：10名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：54名（アンケート回収27名、回収率50%）

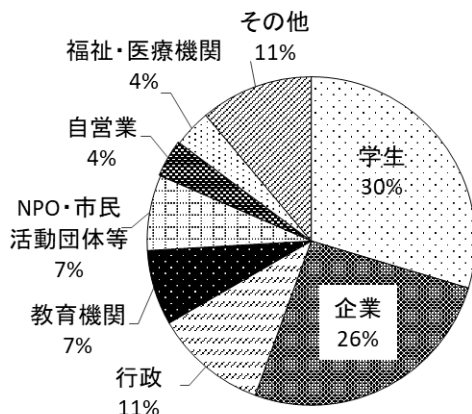
### 1. どちらから？（都道府県）



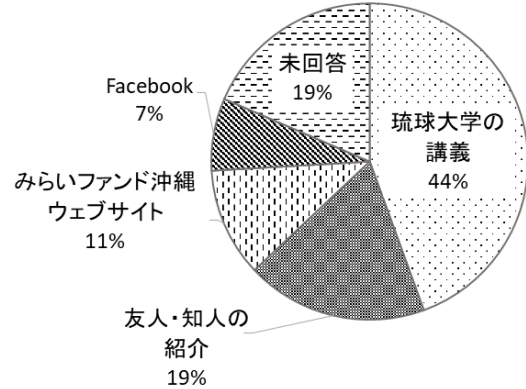
### 2. どちらから？（沖縄県内市町村内訳）



### 3. 所属



### 4. 円卓会議はどのように知ったか



### 4. 満足度

平均：4.1（5点中）

5.満足	4.概ね満足	3.普通	2.あまり満足していない	1.不満足
9名	15名	1名	2名	0名

### 5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・自分の知らなかった現状やいろいろな意見を知ることができた。
- ・沢山の意見が聞けて、考えさせられた。
- ・様々な立場の人の意見を聞くことが出来、自身の興味関心の幅が広がりました。
- ・「部活派遣費は誰が負担すべきか」という設問は狭く感じられたが、着席者、参加者、コメンテーター、司会者が、そこに限定せず、そこを切り口として、テーマの幅を広げ、内容を深めていった点が良かった。
- ・部活動派遣問題について、当事者ではない私でも、会議内容や発表者事例を通して、子どもの人権問題という視点からこの課題を共有し、地域社会の一員として考えていきたい、そういうきっかけになった円卓会議であり、有益な会議だったと思います。ありがとうございました。

- ・ 普段であればやっていることすら知らなかったような会議に参加できたため
- ・ 当事者や行政など、様々な立場の方がいる場での会議を拝聴でき、円卓会議の良さを感じられた。
- ・ 会議をする際の特徴としてディスカッションではなく事実に基づいた情報共有をメインで進めていたのが印象に残りました。また板書の取り方の工夫も非常に綿密に考えられており普段では意識することのない箇所の学びも得られてとてもよかったです。私の専攻では授業でディスカッションや発表の機会も多く、議題の進行方法などをはじめ、自身の授業にも活かせたらいいなと感じました。

#### (4. 概ね満足)

- ・ 丁寧な進行であった。
- ・ 実際どのように進行されているかを体験できた
- ・ 行政の意見だけでなく、父母や当事者である子供の意見が聞けたことが大きいと思った。
- ・ 今回のテーマについていろいろ学べた。

#### (3. 普通)

- ・ 時間が足りない

#### (2. あまり満足していない)

- ・ 当事者が困っている事は十分伝わったが、行政の意見やそれに関わる地域社会側の意見をもっと聞きたかった。
- ・ 部活動の位置づけ法的理解、公的資金の法的支給要件の理解が必要かと思います。

### 6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 大会を離島開催にする
- ・ 主催者が参加費に上乗せして離島参加補助金を作り離島地域が代表になったら配分する
- ・ 児童をみんなの子供として育てる視点

- ・ 子供を地域の資源と捉える視点が印象に残った。
- ・ サッカーの トレ選
- ・ 家庭や行政といった一つの団体だけでなく、いろいろな団体で分担して支援していくことで、持続可能な社会を創ることができる。
- ・ 印象に残ったことはスポーツ以外の活動も子供が挑戦したいことへ、地域が応援できるみんなの子ども！という視点が重要だとおもった。
- ・ 本島と離島の違い、現状が理解できたことが印象に残った。
- ・ 元旅行業の方の、どこの学校(チーム)が派遣されることになっても派遣費は発生するのだから～というご意見は目から鱗が落ちた。
- ・ ①選択と集中による弊害のこと、②子どもたちにも地域・社会の応援について知らせたいという指摘。③公民館・議員などの巻きこみの例 ④地域・当事者によるファンディング活動の可能性について
- ・ 負担割合を各20%にしたら、現実的では。
- ・ ●みらいファンドによる総括から、そもそも「(経済的問題から)派遣されないために部活動をあきらめる」といった見えない課題をどのようにとらえ、行政に届けたり、企業や地域社会で共有化していくべきかをアプローチするという視点。
- ・ ●サブセッションの発表から抜粋的に、持続可能にするためには、公的補助や行政だけに頼らずに、地域社会・県民で広く支える基金や仕組みを構築すること。それを実現させるために、教育や啓発活動を行っていく必要があるという視点。
- ・ 「みんなのこどもとして問題を考える」という意見が印象に残った。

# 部活動派遣費を考える

## 地域円卓会議

2021.1.30(土)  
13:00~15:50

93回目

オンライン  
- Zoom -

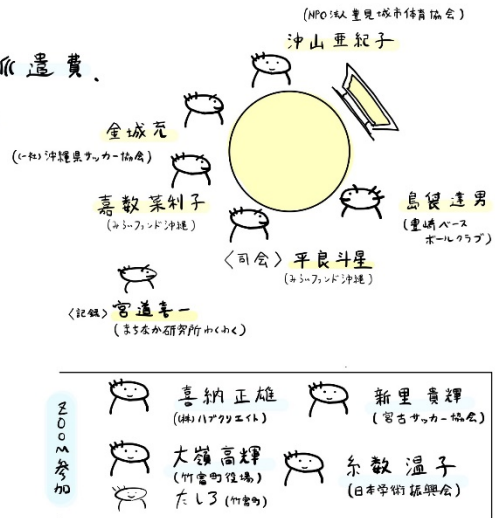
**テーマ** 行政補助だけでは足りない子どもの派遣費、  
一体誰がどうやって支えていくべきか？

**主催** みらいファンド沖縄 **協力** まちなか研究所わくわく



2021.1.30 電話 1

地域の困り事を  
社会課題として  
共有・共感する場



### 論点提供

嘉数菜利子  
(公財) みらいファンド沖縄

#### 沖縄・離島の子どもの派遣基金事業



生まれた場所・住む場所によって  
子ども達の体験に格差を生まない社会づくりを

本事業は、鹿児島県沖繩において、住む場所により子どもたちの移動の自由が制限されているということが、子どもから「体験すること」という人生の選択枝を奪っており、子どもの人権が守られていない不平等な状態だと地域全体が認識することを目的に実施する。

また、同時に、子どもはPTAや一部の関係者だけでなく地域全体の資源であり、全体で育てるものである相互扶助の価値観の再構築も目指したい。多くの「体験」の機会の中でも、部活動の派遣費の負担の課題は、鹿児島県の不利性を本人や家族が自己責任で担保しているため、子どもの学びの機会に不平等が生じていることを社会課題と捉え、県民全体でこを支える仕組み(基金)を作ることを目標とする事業である。

#### 助成団体(実行団体)のご紹介

<p>一般社団法人沖縄県サッカー協会 鹿児島県サッカー協会</p> <p>豊見城市子ども派遣基金事業</p> <p>豊見城市体育協会 Tsunogasaki Athletic Association</p>	<p>株式会社ハブクリエイト 株式会社ハブクリエイト</p> <p>沖縄・離島の子どもの派遣基金事業</p> <p>HubCreate</p>
---	---

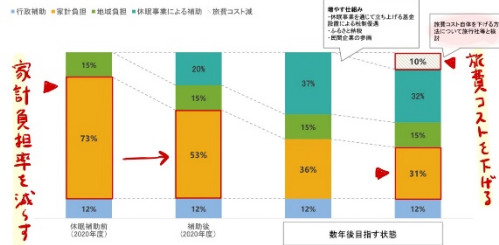
<実施期間> 2020年3月1日～2022年2月28日  
<総派遺費額> 約300,000円  
(内訳) 事業費 20,000,000円  
派遣費 100,000円

<実施期間> 2020年3月1日～2022年2月28日  
<総派遺費額> 約300,000円  
(内訳) 事業費 20,000,000円  
派遣費 100,000円

<実施期間> 2020年3月1日～2022年2月28日  
<総派遺費額> 約300,000円  
(内訳) 事業費 20,000,000円  
派遣費 100,000円

2021.1.30 電話 2

部活等派遣費における平均負担内訳(人(2020年度休眠補助対象者)※概算値)



#### 今年度の派遣実績

休眠事業での部活等派遣費補助実績(2020年度1月29日時点)※概算値

- 補助件数... 14件
- 補助人数... 186人
- 一人当たり平均派遣費用... 56,138円
- 休眠事業での一人当たり平均補助金額... 11,152円(総額2,074,344円)

おきりめ  
る  
こどもを  
なくすこと。

調査結果 《2019年度 部活派遣に対する既存補助》

▼H30年度(2019年度):沖縄県の部活動等派遣に対する41市区町村補助実績

支援制度/事業...	66件
※41市区町村に何らかの制度・事業あり	
実績金額...	305,364,608円～ <b>3億円</b>
平均補助額/人...	14,422円
延べ件数...	2,733件～
延べ利用人数...	21,174人～

調査を通じて見えてきた事

- ・教育委員会管轄が多い
- ・補助の充実度は地域差がかなりある
- ・本島と離島の違い
- ・財源として「沖縄振興一括交付金」を活用している市区町村は、全体の約6割  
特に離島15市区町村においては、確認の取れなかった座間味村除く、すべての市区町村で活用

所感

- ・子どもたちの体験を支え続けるためにどうしたらよいか、課題意識を持っている行政は多い

行政補助は引き続き重要

2021.1.30 **電通 3**

事業名: 島国沖縄の子どもたちに夢をあきらめさせない  
(団体名: 一般社団法人沖縄県サッカー協会)

▼2020年度 派遣補助実績 総件数: 5件、合計: 110万円の補助

<内訳>

- ・ JFA第44回全日本U-12サッカー選手権大会 沖縄予選 (補助内容: 宮古地区3チーム、補助金額30万円)
- ・ 全国高校サッカー選手権大会 (補助内容: 登録人員旅費補助、補助金額60万円)
- ・ 知的障がい者トレンセン移動費 (補助内容: 移動費、補助金額20万円)  
※補助調整中



- 考加するために派遣費でござるこ
- 才能ある子があきらめてしまふ
- 必要性
- 大会によって行政補助でないこも
- 行ける人から選ばれるはなない

2020年度 補助実績

事業名: 豊見城市の子ども派遣事業 (団体名: (特非)豊見城市体育協会)

▼2020年度 派遣補助実績 総件数: 5件、合計: 139,190円の補助

<内訳>

- ・ 九州小学生バドミントンフェスティバルinくるめ (補助金額43,930円)
- ・ KYFA第11回九州U-15女子フットサル選手権大会 (補助金額34,950円)
- ・ JFA第25回全日本U-15女子サッカー選手権大会 (補助金額19,150円)
- ・ JFA第11回全日本U-15女子フットサル選手権大会 (補助金額23,160円)
- ・ 2021九州ジュニアテニスサーキットマスターズ大会 (補助金額18,000円)

<補助内容>  
(航空運賃、宿泊料、移動費、運搬費)の2分の1



九州大会: 熊本県上天草市へ派遣

- 2回目出ない
- しごう者・コーチ・父母への補助行ない
- 引率者へ行政補助出しづらい
- 父母 → レンタカーが対象とあることよるこぼれた  
他のレベルを知るキガ

2020年度 補助実績

2021.1.30 **電通 4**

事業名: 八重山・離島の子ども派遣基金事業(団体名: ハブクリエイト)

▼2020年度 派遣補助実績 総件数: 5件、合計: 1,035,154円の補助

<内訳>

- ・ 野球大会 (石垣中学、112,125円)
- ・ 演劇公演 (やいま浪漫の会、611,070円)
- ・ 野球大会 (大浜中学、58,129円)
- ・ 野球大会 (真喜良小学、115,830円)
- ・ 野球大会 (石垣中学、138,000円)



大浜中

- 宿泊・食費の手親と休眠も補助
- 野球 4件
- 演劇公演 1件 ← 今年カバードキョウをふたかど
- 強い4-6ほど無理大きい
- 兄弟での考加
- 親 行ける、行けない 必要
- 用具
- テーピング バンド → オンライン  
1回の支払い 100円 会場、かき

島袋 達男さん  
(豊崎ベースボールクラブ)

長男 6年生 → ハケンと経験

● 250チーム → 40チームが  
学童野球 25の大会へ

● 資金づくりのしくみ・仕組みある (歴史)

● 80万集めることでまた  
行政補助も活用  
1人8万円は各家庭  
1週間

● 辞退したいという子でできた

● 大会に出るだけでハケン費用

● セーフネットとしてのしくみ必要

● つらい思い、おそろいするところない  
皆でたづむから (問題)

うもれている競技  
旧の目あひの競技  
文化活動  
メジャーなスポーツ  
以外へも

フォローアップ  
エントリー型の大会は  
行政補助がない

常いづの  
コミュニケーション

(甲斐・部員)

わかる  
信頼関係  
つくって  
いかな

新里 貴輝  
(宮古サッカー協会)

息子がサッカーはじめる  
お父さんコーケ

● ジュニ3年代 小1~小6  
えんせい・大会多い

● トレセン制度 → 本島に専マリ  
宮古から1.2%行く 月1回  
ある

● 4~5回  
トレセン + 2回  
腕を遊ぶ次の週末  
全額自己負担  
行きますか?  
経済的に  
合意でき

● 地域密着 → 農作業でみだし

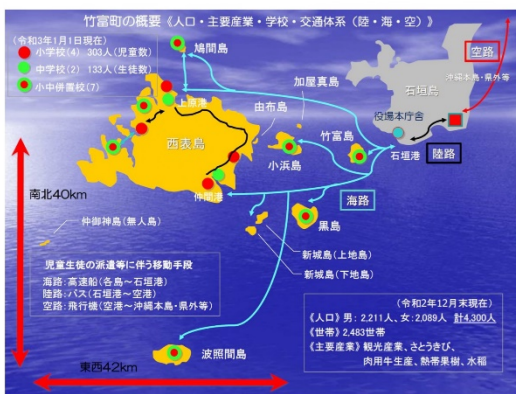
● 部費のつみ立てから → 指導者分へ

● コロナ → ホテルをいい → 逃げ出して  
できなかった  
レタカー + 運転手  
係り者

2021.1.30 5

大嶺 高輝さん  
(竹富町役場)

たし3さん  
(竹富町)



9つ有人島 7つ無人島 小4 中2 小中併置7

● 島 → 石垣島 → 沖縄県  
船バス 飛行機 バスレンタカー

● 天気によって船便では  
し前泊、後泊

● 一括支払いを適用して補助

● 島の振興計画 (新たな)  
↳ 県・国へよろこびいる

● 施設コスト

● 教育委員会と連携しながら

● 宿泊予約ともた庁舎の検討

2021.1.30 6

糸数 温子さん  
(日本学術振興会)

● 地域間移動 → 人口流出にフな  
競争的

● スタート  
選択と集中による  
へーが  
経済力ある家庭

● ともとも選択とあそびあそび  
その前にある

● スポーツ以外のことであそびあそび  
体験係りのハイパー

沖縄電力  
奇崎さん

『おきでん more-E』  
ポイントと部活派遣へ

more-E

『おきでん more-E』のご紹介

「おきでん more-E」は、当社の会員制 web サービスで、当社と電気供給契約のあるお客さまがプレミアム会員に登録していただくと、電気料金に応じて「おきでん E ポイント」が貯まります。貯まったポイントは地域のスーパーマーケットや金融サービスなどに交換ができるほか、地域のプロスポーツチームの応援、地域の課題解決などに寄付することができます。また、スマートフォンや自宅のパソコンなどでいつでも毎月の電気料金やご使用量の確認なども行えます。

『おきでん more-E』入会申込ページはこちら →  
<https://more-e.okiden.co.jp>



